

お邪魔してきました！  
**お茶のみ会**  
in 神地

去る2月17日、未来通信隊のメンバー2名で、神地のお茶飲み会にお邪魔しました。当日は雪の降る中、「やまびこ」に20名以上の人が集まり、歌におしゃべりに盛り上がりました。



「道志の湯」は自慢の温泉、寒い冬に暖まるのに欠かせないんだけど、今は工事中でお休みだからね。春にオープンしたらお茶飲み会を「道志の湯」でやろうよ。

道志音頭は定番ナンバー♪

診療所へは、（あすなろに）電話かけると連れて行ってもらえるからね。本当に助かっているよ。ありがたいねえ。

手仕事のお土産をいただきました！

雪の吹雪く中、活動メンバーの皆さんが送迎をされていました。ご苦勞様です。冬は公民館だと広すぎて寒いのでこちらで開催されたそうです「送迎のお手伝いがほしいな」というつぶやきが聞こえてきました。

## Topics

山梨日日新聞が、安心の村づくりPJのふれあいトークに連載記事「すけっこの流儀」の取材にこられました。地域の活性化などを取材しておりその集大成として、道志村での暮らしの支えあいの姿が掲載されました。第6部まるまる道志村です。是非ご覧ください！

編集後記：川原畑地区からスタートし地区毎のお茶飲み会は全村に広がり始め、参加されている方は本当に楽しそうで笑い声がたえません。買い物ツアーについても、順調に進められています。私たちの事業も村内はもとより、村外のマスコミにも注目されているようです。ふれあいトークの記事も是非ご覧いただきたいです。

(MO, MM, SN)

発行責任者：池谷力三  
この事業は平成23年度予算の「高齢者福祉事業調査費」により村民・役場・委託事業者の協働作業で行われております。  
〈お問い合わせ〉  
道志村役場住民健康課 52-2113まで

「世代を超えて安心して暮らせる村づくり」プロジェクト 第3期に突入！

# 道志村未来通信10



2012年3月1日発行

## 「世代を超えて安心して暮らせる村づくり」プロジェクトがふれあいトークの公聴対象団体として参加しました

今年4月に開催を予定していた「世代を超えて安心して暮らせる村づくり」プロジェクト（以下「安心の村づくり」）の報告会が震災の影響で延期になり、改めて開催の計画を立てるために報告会運営委員会を9月に開催しました。その際、「安心の村づくり」の活動がそろそろ村民と住民健康課だけで進めることに限界が来ており、役場全体で課の枠を超えて村民と協働する体制を打ち出してもらわなければ先に進められないという意見でまとまり、まずは、村長はじめ各課課長との懇談を要望することになり、9/28に「安心の村づくり」活動メンバー有志が住民健康課長と懇談し、村長と各課課長を交えた懇談の呼びかけをお願いしました。

このような経緯の中、以前からある公聴会「ふれあいトーク」を活動団体ごとに行うことになり、「安心の村づくり」では12/8に「ふれあいトーク」が開催されました。

「安心の村づくり」の活動としては、行政側が村民と協働で村づくりを進めていくための実践段階に入ってきており、今回の「ふれあいトーク」はその第一歩となりました。

## 村民主体の村づくりへの転換を期待します！

『ふれあいトーク』は役場が行う公聴会の一システムです。一方村で進めている「サステナ水源会議」は、村外の研究者などの知恵を村づくりに生かすシステムとして進んでいます。この3年間、「安心の村づくり」プロジェクトでは、世代を超えて誰もが自分らしく安心してこの道志村で暮らし続けていくための暮らしのあり方を考え、その暮らしを支えるためのきめ細かい村民主体の活動実態を育ててきました。いわば、村民主体の村づくり活動のシステム作りの第一歩です。

お年寄りが孤立しない村、子どもの声が村に響き渡る村、村外からも住んでみたい人が来る村、そして、村を愛する人が住み続けられる村…日本一の水源の郷を誇りに、様々な知恵と力を集めて、道志村民の幸福度を更に増していくような村づくりの仕組みを実現していきましょう！



## 世代を超えて安心して暮らせる村づくりプロジェクト ふれあいトークで意見交換しました！

### ●村長から今回のふれあいトークの 趣旨説明がありました

今回の「ふれあいトーク」は各種団体ごとに話をしており、中学生などにも意見を聞いています。「安心の村づくり」プロジェクトが活発に活動していることも未来通信を通じて知ることができ良い評判も耳に入ってきていますので、今日はいろいろなお話を聞かせて下さい。

村の運営の大きな方針として、ハード中心からソフト中心へと考えており、村民の皆さんの日々の問題意識を少しずつフォローしていけるようにしたいと考えています。

### ●それを受けて、まずは活動メンバーから 安心の村づくりPJの土台となる考え方を 投げかけました

「自分で車を運転できなくなったとき、このプロジェクトに参加したいと思いますか？自分がそうなったときのことをイメージしてもらいたいのですが、いかがですか？」という質問を切り出しました。

あらためて問われてみると、自分が年をとったときのことを余り考えたことがないですね。

自分が運転できなくなったら引きこもってしまうかも。子どもや誰か頼ったりして、情けない生活をしているかも。

そうなんです。普段はなかなか考えないけれど、自分のこととして考えることが重要なんです。だから私たちもこの活動をゆくり続けているのですよ。今日は、この村で生き、老いていく当事者として活動している立場でお話をしたいと思います。

### ●お茶のみは女性だけ 男性も出てくるには役割がないとね…

- お茶のみの参加者はほとんどが女性
- 男性はお茶飲んでおしゃべりして歌って踊って…というのはいないね。
- 生き生き活動している人もいるから、以前していたようにそういう人を広報で紹介したら？
- 活動メンバーも今は男性が2名だけ。
- 買い物ツアーでは、男性には荷物を持ってもらっている。役割がはっきりしていると参加しやすいかも。

### ●道志村って、女性と男性の席が 別れてるのが不思議

- ここでは男女の席が分かれている。村外から移住した自分には不思議。この村の伝統か？
- 都会では夫婦毎に座ったりする。
- 古い家だと横座（お客さんと家長が座る）の慣習がある。
- 言われるまで意識したことなかった！
- 男性は外、女性や家の中という役割が違っていいからね。
- 「飯・風呂・寝る」は奥さんが対応？→どこもそうそう（笑）（女性）→この場から立ち去りたい…（男性）
- 継続的にやろうとすると、夜の会議だと出てきにくいかも。

### まとめ

今後、安心の村づくりプロジェクトも、村民の暮らしを支えるきめ細かい活動・サービスをどう実現/継続していくかという段階に入ります。特に、移動手段については村民全体に関わる大きな課題です。役場との協働プロセスを共有すること、まずは何度も対話をし続けましょうということで、ふれあいトークは終了しました。

一番の問題は  
困っている人に役に立つ移動手段  
それは、大きなバスを走らせることでは  
解決できない

- 空バスを走らせるのではなく、もっと有効なお金の使い方をしたい。増便決定の前に総務課と話したかったが…決めるプロセスを共有したい。
- バスの本数を増やす前に知ってほしいのはバス停に足を運べない人がいるということ。
- 路線バスに代わる何かを話し合っていたときには、男性ももっと参加していた。
- 都留や吉田の病院に行くのに、バスの時間が合わないタクシーに乗るしかない。甲府だと往復9000円、都留だと7000円かかる。
- 福祉タクシーも高価で使いにくい。
- バス代も高い。富士山駅まで往復5000円
- 子どもは15才で村外へ。交通費やガソリン代など、すごい額をかけている。
- 社協のバスが一台空いているが使えないか？→社協名義で個人では使えない。
- 自分は運転するので余り考えたことがなかったがここでは運転できないと生活が全く違う。
- 新住民の問題だけでない。送迎のために家族が仕事を休まなければならない人もいる。ボランティア送迎をしたとき、そう言って泣いていた人もいた。
- 20～30年後、自分がどうやってバス停に行くか大きな問題だ。
- 70代～80代の人の運転も怖い面がある。
- 過去に少々移動手段についてはプロジェクトで話し合いをしてきた。→民間会社や隣接市町村との絡みがあり、道志村だけでやれることではない。（総務課）
- いろいろと組み合わせて、ニーズにあった道志村独自のやり方を考えたい。

買い物をしてくれようより  
一緒にみんなで行くことに意味がある  
だから買い物ツアーなんです

- お米から牛糞まで、重い物を結構買われる
- 一人暮らしと高齢世帯が対象。「楽しかった、1ヶ月待たないと次がない」と言っている人も。一人の世界ってこういうものなんだと思った。
- 昼食をとったり、帰りにちょっとお花見に行ったり…「おいしいね、みんなで食べると。いつもは食べている気がしない。」と
- 買い物をきっかけにこもらずに外に出て、人と一緒に過ごし、自分で物を選び…そう言うことが大切なんです。

外部の知恵をいただくことも大切だけど  
実際に動いているのはこのプロジェクト  
決めるのは村民

- サステナ水源会議では、外部の専門家と共に、総合計画のズレを見直している。「森林の再生」「過疎の中でどう生きるか」「子どもの教育や高齢化など身近な問題」がテーマ（村長）
- 高齢化率28%→40%になっていく予想。人口減少を食い止める方策など必要。移動手段も大切なことだが、全てが便利には行かないのでメリハリが必要。（総務課）
- そのメリハリを決めるのは村民であるはず。実際に動いているのは安心の村づくりPJということを理解してほしい。

在宅介護を支える唯一のデイサービスを  
民営化したので、応援してほしい

- 在宅を本人が望んでも重くなると家族の負担が大変。道志村の在宅介護を支える大切なところ。応援してほしい。（住民健康課）

